令和元年　第９回

教育委員会臨時会会議録

とき　令和元年７月１６日

品川区教育委員会

令和元年第９回教育委員会臨時会

日　　時　令和元年７月１６日（火）　　開会：午後２時
　　閉会：午後４時５０分

場　　所　教育委員室

出席委員　教　育　長　中島　豊
　　教育長職務代理者　菅谷　正美
　　委　　員　冨尾　則子
　　委　　員　海沼　マリ子
　　委　　員　塚田　成四郎

出席理事者　教育次長　本城　善之
　　庶務課長　有馬　勝
　　学校施設担当課長　若生　純一
　　学務課長　篠田　英夫
　　指導課長　工藤　和志
　　教育総合支援センター長　大関　浩仁
　　統括指導主事　丸谷　大輔
　　統括指導主事　唐澤　好彦
　　指導主事　齊藤　隆光
　　指導主事　増田　晃教
　　指導主事　石原　朋之

事務局職員　庶務係長　小林　則雄
　　書　　記　亀田　万恵
　　書　　記　中嶋　康二

傍聴人数　２２名

その他　品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を非公開とした。

次第

協 議 事 項　　令和2年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）算数・理科・生活科）

報告事項１　　事務局職員の任免等について

報告事項２　　都費教職員の任免等について（休職）

そ の 他 １　　品川区スポーツ推進計画の策定について

そ の 他 ２　　令和元年８、９月の予定について

令和元年第９回教育委員会臨時会

令和元年７月１６日

【教育長】　　ただいまから令和元年第９回教育委員会臨時会を開会いたします。

本日の署名委員には、海沼委員、塚田委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方がおられますので、お知らせいたします。

本日の会議の持ち方についてお諮りしたいと思います。日程第２、報告事項１　事務局職員の任免等について、日程第２、報告事項２　都費教職員の任免等について（休職）。この２件につきましては人事に関する案件となりますので、品川区教育委員会会議規則第１４条の規定に基づきまして非公開の会議といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

【教育長】　　異議なしと認め、本件につきましては全ての日程の終了後に審議することといたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第１、協議事項　令和２年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）算数・理科・生活科）。事務局からの説明をお願いいたします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】　　それでは、使用教科用図書についてご説明いたしますが、その前に、教科書展示会を区内で行ってまいりましたので、６月３日から２９日までの期間ですが、教育総合支援センター、品川図書館、２カ所を活用しまして１２１名の方に本年度はご来場いただきました。昨年が９４名ですので、大きく人数は増えております。アンケートは３９通いただきました。展示開場を増やしてほしいというご意見等もいただいておりますが、２カ所に増やして、本年度も実施はしております。なお、全体的にはさまざまなご意見を各所ともいただいております。今年度は、ＱＲコードが多くの教科書に入ってきているというような感想めいた言葉などもいただいているところでございます。参考までにご紹介させていただきました。

それでは、算数、理科、生活科の順で、それぞれ担当指導主事よりご説明申し上げます。

【指導主事】　　教育長、指導主事。

【教育長】　　指導主事。

【指導主事】　　私からは、算数の教科書についてご説明します。

品川区立学校教育要領では、基本方針として、知識、技能を中心に教えるべき内容をしっかり指導することや、筋道を立てて自分の考えを説明するなど、自己表現能力を身につけさせるため、問題解決のための考え方や方法、根拠を説明するなどの活動を重視した授業を展開することなどが挙げられています。算数の標準授業時数については、第１学年が１４０時間、第２学年から第６学年までは１７５時間となっています。

それでは、これらの観点をもとに各社の特徴を説明します。一覧表をごらんください。

まず、内容の（１）児童の発達段階への配慮についてです。６社全てにおいて、１年生

入門期での児童でも親しみやすい紙面や画面設定となっています。その中で特徴的なのはＤ社とＦ社です。青色の附箋をごらんください。

Ｄ社は、入門期に特化した第一分冊があり、書き込めるノートの機能を持たせています。ゆとりある紙面でブロックなども無理なく置くことができます。

Ｆ社は、ＡＢ判であることに加え、冒頭に折り込みページを用いているため、ブロックを置いたり書き込んだりしやすくなっています。

次に、内容（２）内容のわかりやすさへの配慮についてです。５年生の教科書にオレンジ色の附箋を張っていますので、ごらんください。こちら、６社全てにおいてデジタルコンテンツが用意されております。その中で、Ｅ社では、本文中にもＱＲコードがあり、そこから読み取りページに飛ぶことができるようになっています。

続きまして、内容の（３）小学校と中学校の学習内容の接続や系統性、関連性への配慮についてです。一覧表をごらんください。ＡからＥ社では、巻末で中学校の内容をまとめて取り上げているページがあります。Ｆ社だけは、中学へのかけ橋という別冊があり、小学校で学んだ９つの考え方を振り返るとともに、中学校の学習内容、負の数、文字と式、方程式、作図、関数、統計を示しています。

次に、内容の（４）発展的な学習内容についての配慮についてです。こちらは、プログラミング学習について比較してみました。各社５年生の教科書、赤色の附箋ページをごらんください。こちらは、５年生の図形学習の正多角形を描く活動においてプログラミング学習を経験させるようになっています。なお、Ｂ社では、全学年において巻末近くにプログラミングに挑戦のページがありました。

次に、２、構成と分量（２）全体の構成とその見通しに対する配慮についてです。６年生の教科書、目次を書いた黄色い附箋のページをごらんください。目次の状況においては、Ｂ社とＤ社のものが、既習事項とのつながりに加え、下巻や次の学年とのつながりも記載されています。

続いて、構成と分量の（４）教材の特質に則した教材の構成と基礎・基本事項に対する配慮についてです。一覧表の一番目の〇をごらんください。各社単元の終わりに、まとめとして、算数科における基礎・基本的な考え方の定着を図っています。中でも、Ｅ社は、各学年末の算数資料集に図の書き方や算数でよく使う考え方、さらには〇年生までのまとめ、〇年生のまとめが記載され、基礎・基本的な知識や理解事項を振り返ったり活用したりすることができるようになっています。

次に、３、表記と表現の（１）表記に対する配慮についてです。いずれの教科書も、それぞれの配慮がありました。各社、教科書に出てきた言葉と記号は、いずれも巻末に一覧としてまとめられていますが、Ｆ社の６年生、ピンクのページをごらんください。Ｆ社のみ英語での記述も併記されています。

続けて、３、表記と表現の（２）教材の特質に則した表現等への配慮についてです。３年生、Ｅ社、上の教科書、水色の附箋にありますように、筆算の計算問題のあらわし方に、他社と比べて特徴がございます。

続いて、４、学習活動の（１）主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮についてです。一番目の〇、いずれの教科書でも、巻末に主体的・対話的な学習の進め方についてイメージさせるページがあります。全体で配慮が見られましたが、特にＡ社５年生、Ｄ社

５年生下、Ｅ社４年生上、Ｆ社５年生上、それぞれ赤色の①と書いた附箋をごらんください。Ａ社は、主体的・対話的で深い学びのモデルとなる授業展開を掲載しています。また、Ｄ社は、主体的・対話的で深い学びのモデルとなる「今日の深い学び」を設定しています。Ｅ社は、「どんな問題かな」「自分で考えよう」「みんなで考えよう」「たしかめよう・ふりかえろう」に続く新たな問いを学びのめばえとして取り上げています。Ｆ社は、各学年巻頭に「３つの学び方で学習を進めよう」と設け、みずから進んで学ぶ主体的な学び、２、友達とともに学ぶ対話的な学び、３、学習したことを生かす深い学びという言葉で学習課程を示しています。

２番目の丸、いずれの教科書でも重点となる単元で主体的・対話的で深い学びをイメージしやすいモデル単元として使命をつくっております。その中でも、Ｄ社の１年生緑の附箋ページをごらんください。こちらは、ノートづくり取り組みを踏まえ、第二分冊では「のうとをつくろう」として進化したノート例を記載し、児童みずからが主体的にノートをつくっていけるようにしています。また、Ｅ社の５年生、緑の附箋をごらんください。こちらは、既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面、自分の力でというマークをつけ、児童が主体的に学習を進めていけるようになっています。

次に、造本の（１）配色や文字の大きさ等、全ての子どもたちが見やすい配慮についてです。ユニバーサルフォント等はどこも工夫されています。その中で特徴的だったのが、Ｅ社、Ｆ社です。Ｅ社、３年生上の教科書、８５ページになります。Ｆ社、３年生下の教科書、こちらは１２５ページ、黄色の附箋ページとなります。こちら、棒グラフが記載されておりますが、棒グラフの単元で、色だけでなく網かけや形などを手がかりに区別ができるようになっています。

続いて、５、造本の（２）製本は体裁がよく堅ろうであり、安全や環境への配慮についてです。Ｂ社が、全学年１冊です。また、Ｄ社が１年生の入門期のものだけ分冊としてＡ４判になっています。Ｆ社は、全学年ＡＢ判を採用しており、６年生で中学校へのかけ橋が別冊になっています。

次に、地域性、品川区や東京都の地域に対する配慮についてです。一覧表をごらんください。５、６年生の教科書で調べていまして、来年度開催される東京オリンピック・パラリンピック、または東京スカイツリーなど、それぞれ扱っています。

最後に、総合所見です。Ａ社は、巻末の「学びの手引き」の中に垂直線の描き方、コンパスの使い方、垂直、平行な直線の描き方というように技能面のフォローアップが充実しています。Ｂ社は、全学年１冊で構成されていることから、既習事項の振り返りが１冊で済みます。Ｃ社は、主体的・対話的な学習の課程に対応した板書例や授業風景の写真を取り入れたり、児童の様子をイメージできるイラストが多用されたりしています。Ｄ社は、１年生での第一分冊を取り入れ、ノートがわりにできるようになっております。Ｅ社は、巻末の資料集が充実しており、自分の考えの説明の仕方や話の聞き方、算数でよく使う考え方、図の描き方が記載されています。また、本文中でもＱＲコードが出てきます。Ｆ社は、６学年共通で「考え方モンスター」を登場させることにより、働かせる数学的な見方、考え方や育成すべき資質能力が明確でイメージしやすくなっています。

以上で説明を終わります。ご審議、よろしくお願いいたします。

【教育長】　事務局の説明が終わりました。質問、ご意見等あればお願いいたします。

【塚田委員】　　よろしいですか。
【教育長】　　はい。塚田委員、どうぞ。
【塚田委員】　　Ｄ社は、第一分冊がある。Ｆ社は、６年生で「中学へのかけ橋」という別冊がある。こういう分冊とか別冊については、何か委員会で意見が出ましたか。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　委員会のほうでは、別冊があることによって、特にＤ社のほうでは１年生の最初のブロックを送るというところについては非常に置きやすいというような点が出ておりました。
　ただ、Ｆ社においては、「中学校へのかけ橋」という分冊がございますが、こちらはちょっと量が少し多くなるといったところは、意見が出ておりました。
　以上です。
【教育長】　　塚田委員、いいですか。
【塚田委員】　　はい。
【教育長】　　本区では、結構分冊の教科書については、これまでの研究会や委員会で、先生方のご意見として、特に低学年のほうでは忘れやすいとか、どうしても準備するのに課題になるというようなことが挙げられてきましたが、今回はそういうような話にはなっておりませんか。指導主事。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　どうぞ。
【指導主事】　　確かに、分冊することによって忘れ物が増えたりというような心配される声もございました。
　以上です。
【教育総合支援センター長】　　教育長、センター長。
【教育長】　　教育総合支援センター長。
【教育総合支援センター長】　　委員会の先生方には、どれがいいとかということではなく、それぞれの特徴という形で検討していただいていますので、今申し上げましたように、分冊に分かれて振り返りたいときに何かあったり、あるいは間違えて上下巻違うものを持ってきてしまったりを心配する声もありました。一方で、重さの対策で分かれているほうがいいという意見もありますので、一長一短ありますので、どちらがという部分については、一概には決められないねというような感想めいた会話などがあった程度です。
【教育長】　　どちらも、使い勝手のいい点、悪い点があるけれども、先ほどお話があったように、Ｄ社の１年生の大きめのやつは、ブロックを使って学ぶ段階においては有効であろうというような状況が出てきていますね。
　ほかに、委員の方、いかがでしょうか。冨尾委員、どうぞ。
【冨尾委員】　　内容についてなんですけれども、構成と分量のところで、例えば掛け算ですけれども、５の段からですとか２の段からというような学習の一番最初に取りかかるときにどこから勉強するといったような順番が書いてあると思うんですけれども、これは、どちらでもいいというか、委員会のほうでは、そういったようなお話はありましたでしょうか。
【教育長】　　教育総合支援センター統括指導主事。

【教育総合支援センター統括指導主事】　　委員のほうからは、確かに５の段、２の段、それぞれ始まるというところで、差異があるということで記載させていただきましたが、２の段であれば、基本的に１の次に２という形になったり、５であればまとまりで考えられるという話で、こちらにつきましても、差異という話では出ていません。どちらにしても、やり方としてはあるのかなという話でございます。

以上です。

【教育長】　　ここの内容の配列につきましては、掛け算の順番ですとか、割り算の等分除所から入るのか包含除から入るのかというようなところの分数、小数というあたりが、若干それぞれにおいて違っているようですが、この辺は実際に指導されたのご意見などがぜひ聞きたいところなんですけれども、委員の中にも、そういう方もいらっしゃいますけれども、どうぞ、職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】　　割り算のところ、包含除、等分除、僕は、小学校の免許を持っているし、小学校で教えたことがあるんだけれども、小学校だけですね、こういう言葉を使っているのは。

【教育長】　　一般用語ではないですよね。

【菅谷教育長職務代理者】　　どう見ても、そんな意味のあることじゃないと思っています。というのは、算数というのは原理原則ですよね。それで前と後ろの話ですよね。かえって難しくしているだけで、このことで意味があることで、数学的な意味があるかというと、ないんです。はっきり申し上げて、ないんです。数学の意味として。ただ、算数の中ではあったかもしれない。でも、これにこだわっちゃいけないなという部分があると思うんです。分数と小数は、今度は逆です。まず、分数はいい。分数がないと次に小数は絶対出てこないんですよ。

というように、数学の実の考え方でいうとそこなんです。分数の表記の中で、あの形で表記するだけであって、答えが出てこないでしょう。例えば、３分の１というと、それ以上の答えって出てこないんです。小数で書くと３．３で、３がずっと続くでしょう。数学のことで考えていくと、やっぱり分数を先に教えないと、次に小数の意味が出てこないんですよ。例え、０．１足す０．１という発想は子供から出てこないでしょう。でも、１０分の１というと出てくるんです。

その辺のところで、算数と数学というのは違いがあるけれども、基本的に僕はないなと思って指導したほうが、算数で終わるわけにはいかないので、その次の数学へいかないとどうしようもないです。というところを、僕は大事にしたいなというふうに思っています。

【教育長】　　ありがとうございました。自然科学的な観点からお話をいただいた。分数から小数に移行していったほうがいいですよということになると、この一覧表でいくと２社という形になりますよね、大きな条件になりますね。

等分除と包含除については、等分除というのは、ご存じのように１２個あるあめを４人に分けたら１人幾つですかという話で、包含除のほうは１２個のあめを３個ずつ分けたら何人に配れますかというものです。考え方としては同じだというような職務代理者のお話だったかなというふうに思います。よろしいですか。

じゃ、ほかに意見、ありましたら、どうぞ、ご質問でも結構です。

どうぞ、職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】　　最近の小学生の算数の中で、単元として、教え方が難しいとか、またはできが悪いというのか、理解していないものというのがあれば、幾つかあれば教えてください。
【教育長】　　これは、研究会のほうにということになりますか。どなたかお答えになれますか。特にそういう話になっていなければ、それはそれで結構ですが。
教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　すいません、ちょっと答えが正対するかなんですが、調査研究会のほうでは、やはり基礎的、基本的な事項、こうした問題については、子供たちはよくできる。ただ、これが応用的な問題になってきたときには課題があるという内容ではあったんですけれども、今回の調査研究の中で、その内容に触れたような、絡むような話としては出ていないところです。
　以上です。
【教育長】　　よろしいですか。
　ほか、どうでしょうか。冨尾委員。
【冨尾委員】　　子供たちが、私の印象としてですけれども、算数を勉強する上でひっかかってくるかなと思ったのが分数のところかなと思ったんです。分数の考え方が各社２年生から３年生にかけてあると思うんですけれども、例えばＢ社ですと、３年生の初めのところで、Ｂ社がたしか３年生の１６３ページ、Ｂ社の３年生の１６３ページ。
【教育長】　　３年生のＢ社の１６３ページでいいですか。
【冨尾委員】　　はい。間違えた、Ａ社だった。ごめんなさい。
【教育長】　　３年生はいいですか。
【冨尾委員】　　はい、３年生はいいです。
【教育長】　　上巻、下巻ありますが。
【冨尾委員】　　下巻の３６ページで、Ａ社ですと、いきなり分数を始めるときに、どちらが四等分かなという言葉が出ていて、等分という言葉がちょっと難しいんじゃないかなと思ったんですね。ちなみに、２年生ですと、２年生の下巻の９２ページに。
【教育長】　　Ａ社でいいですか。
【冨尾委員】　　Ａ社の２年生下巻の９２ページが、そのまま３年生につながっていくんですけれども、特にこの等分という言葉は出てきていなくて、いきなり３年生になってから等分という言葉が出てきていて。
【海沼委員】　　２年生で出てきている。
【塚田委員】　　２年でもあるよ、等分って。
【冨尾委員】　　ここにあった。あ、そうなんですね。２年生のことをしっかり勉強していれば、等分という言葉が入ってくるんでしょうけれども、ある程度時間が置いたところで表題として出ているのが、まずどうかなというのがちょっと思ったことと、あと、Ｄ社の２年生の下巻の８３ページと、３年生の下巻の３６ページ、あるんですけれど。この２年生の下巻の時点で四等分というのがあるんですが、もとの長さがテープでも図形でも４分の１というのがいろいろな形で出ているんですね。同じページにこのようにテープと図形と出ているところというのがほかではあんまりなくて、ページをめくればあるんですけれども、３年生以降で分数を勉強していくときには、ほとんどがテープの長さで勉強して

いくことが多くて、２年生のときに主に面積で４分の１とか何分の１というのを勉強してはいるんだけど、３年生になってテープで学習を進めていかなくちゃいけないというのが、少しハードルが高いのかなというか、よりわかりやすいのは、両方とも４分の１というのは同じように分けているんだよという、言葉としての意味を図でしっかりわかりやすくしているのはＤ社なのかなというふうに思いました。

そのほかですと、ほかのところでももちろん出ているところはあるんですけれども、主に２年生では面積で、３年生では長さで、あるいは量でというような形で、３年生ではわりとさらっと、もうわかっているでしょうという意味ではないですけど、その考え方をもとにして計算ですとかいろんな表現の仕方なんていうのがかかわってくるというのは、少し難しいんじゃないかなというふうに思ったんですけれども、いかがでしょうか。

【教育長】　これは数学的なクエスチョンという感じになってきておりますが、事務局のほうは何か答えがありますか。

教育総合支援センター統括指導主事。

【教育総合支援センター統括指導主事】　通常というか、基本的にどの社もテープで扱っていることが多いと思うんですが、まず、この４分の１とかを理解する上で、なかなか言葉だけでは理解できない実態がございます。ですので、具体物を使って理解させるというような内容になっております。おそらく、面積のほうに、ピザとか使っていましたか。その子供たちの実態に応じてわかりやすいものを使用していた教科書の特徴ということでございます。

ですので、どちらかというのは調査研究会等でも出てはいないんですが、子供たちがそれをイメージするに当たって具体物を使うということが共通の話としては出ております。

以上です。

【教育長】　なかなかこれは難しいところですね。いずれにしましても、３年生から今度は数直線をベースとした考え方にシフトしていきますので、いずれテープもそのナビゲートの仕方、そういう形で１つの目で見えていた具象のものを抽象化していくというのが、過渡期に当たるということを、ちょうど今委員が指摘されたのではないかなと思います。どこまでそれを１人１人の理解にあわせてやれるかというところで、具象が多く載っているという意味では、Ｄ社はなかなか丁寧なつくりになっている可能性がありますね。

先生、随分読み込まれましたね、教科書を。

委員の方、ほかにはいかがですか。

【塚田委員】　よろしいですか。

【教育長】　はい、どうぞ、塚田委員。

【塚田委員】　算数が終わると、次、中学の数学になっていくわけですけど、それのつなぎという観点から教科書を比較した議論がありましたか。

【教育長】　品川は一貫教育を進めておりますので、重要な観点になるかなと思いますが、事務局、ありますか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　中学校へのつなぎという視点で見たときには、Ｄ社のものが６年生の単元配列で同じ領域を連続させておりまして、中学校の数学とのつながりに配慮していると

いうような見方がございました。
【教育長】　　Ｄですね。
【指導主事】　　Ｄです。
【塚田委員】　　副題として、数学へジャンプという、こういうのが書いてありますよね。
【指導主事】　　以上です。
【塚田委員】　　ちょっと厚いかなという感じがする。
【教育長】　　塚田委員、よろしいでしょうか。
【塚田委員】　　はい。
【教育長】　　Ｄ社あたりに、そういう配慮が出てきていますよというようなお話だったかなというふうに思います。
　算数で使われる、先ほどの等分除等もそうなんですけれども、専門用語でも、おそらくほかの教科ではあまり使われない言葉ではないかなと思いますので、そういった用語についても、教科書でどう使っていくかというのは難しい状況があるようですけれども、何か言葉でほかに気になるところがあったという委員の方はいらっしゃいませんか。
　海沼委員、どうぞ。
【海沼委員】　　多分、Ｄ社だと思うんですけれども、言葉の言い方で、ノートというところに「のうと」と書いてあったんだと思うんですけと、ノートって普通棒で伸ばすのに「のうと」になっていたので、どこかに見たんだけど。何かちょっと違和感が、ここですね。
【指導主事】　　１年生の２の７０ページにございます。
【教育長】　　１年生の②の７０ページ。「のうと」か。
【海沼委員】　　はい、「のうと」で書くのかなと思ったんですけど。
【教育長】　　６年生のほうは「マイノート」って、片仮名のウではないですね。これは言葉のお勉強になってきました。
【塚田委員】　　平仮名がね。
【冨尾委員】　　平仮名だからだと思う。
【教育長】　　なるほどね、平仮名にちょっと違和感を感じたというところですね。
【海沼委員】　　ただ、１年生なのに、ここから「のうと」になっていると、普通、ノートを持ってらっしゃいとかいうときに棒で書きますよね。
【教育長】　　そうですね。１年生の②だと、もう片仮名習っているでしょうね。
【海沼委員】　　習っていますよね。
【菅谷教育長職務代理者】　　勉強しているもんね。
【教育長】　　なるほど。私は、先ほどの事務局から説明があったＦ社の６年、算数一番最後のほうに、２４４ページですか、この本で出てきた言葉と記号というところで、英語でフォローしてあるというのがあるじゃないですか。もちろん５年生にもあるんですけど、なかなか数学的な英語って、教える先生にもよくわからない。
【海沼委員】　　これから必要かもしれないですよね。
【教育長】　　難しい、読めない英語かなという感じがして、これは必要ないんじゃないかなというふうに個人的には思いました。教師用の教科書だったら、またあってもいいのかもしれませんけど。

言葉については、何か。どうぞ、冨尾委員。
【冨尾委員】　Ｆ社なんですけれども、例えば３年生の上の４１ページと３年生の下巻の８６ページなどで、「はした」という言葉が出てくるんですけれども、ほかの教科書では「はした」という言葉は出てこないんですが。４１じゃないかな、４１じゃないかもしれない。
【教育長】　３年の下巻のほうにはありますね。８６ページのはした。
【冨尾委員】　３年生の下巻の８７ページ。
【教育長】　８７ページですね。
【菅谷教育長職務代理者】　８５ページもあります。
【冨尾委員】　８５ページにもありますか。「はした」という言葉を使って算数の勉強をしていくというのは。
【教育長】　ちょっと聞きなれない言葉だなという。
【冨尾委員】　多いのかどうかという、私が勉強不足なのかもしれないんですけれども、どうなのかなというのが。
【教育長】　これ、研究会では話題になりましたか。
【指導主事】　はい、教育長。
【教育長】　指導主事。
【指導主事】　研究会のほうでは、「はした」という言葉については特に議論にはなっておりません。
【教育長】　あまり日常では使われない言葉だなという感じがいたしますね。こうやってやっていくと、もっとたくさん出てきそうですが、それで終わっては困りますので、ほかにどうでしょうか。もう少し調査していただいた結果がありますけれども、はい、どうぞ。
【菅谷教育長職務代理者】　１つだけ。
【教育長】　職務代理者。
【菅谷教育長職務代理者】　大きさでいうと、Ｆが横長なんですよね。これが使いやすいとか使いにくいとかって、そういうようなご意見はありましたでしょうか。
【指導主事】　はい、教育長、指導主事。
【教育長】　指導主事。
【指導主事】　使いやすさ等について、また各社大きさが、Ｆ社は少し大きめですが、ランドセルの中には入るので、特に使い方に関しては出ておりませんでした。
【教育長】　これだと、ノートを置く場所がないんじゃないかななんて思ってしまいますけども。
【塚田委員】　広げたときにね。
【教育長】　研究会では、そういう話はなかったということですか。
【指導主事】　はい。
【教育長】　私から１つ、その間に、皆さん、考えてください。この分量のところなんですけれども、年間配当時数等にかかわって調査していただいたデータを見ますと、品川区の教育要領では１７５時間、算数は配置してあるんですが、例えばＦ社は２年生以上で１７５時間、ばっちりという配当時数になるわけで、かなりこれは余裕がない状況ではな

いかなというような気がするんですが、そういったような話は出ていませんでしたでしょうか。教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　先ほどお話ししたとおり、品川区立学校教育要領の時数と同等ですので、それと同等で指導はできるという話がある反面、先ほど菅谷委員から質問のありました基礎的・基本的なことをやった後に、もし応用のことをやるという形になったときに、なかなか難しいということも時数によってはあるのかなという話は出ていました。
　以上です。
【教育長】　　新しい内容が入ってきている状況がありますので。ほかに、委員の方、いかがでしょうか。
【塚田委員】　　ちょっといいですか。
【教育長】　　どうぞ、塚田委員。
【塚田委員】　　品川区の年間配当時間ということになると、このＤの６年生、結構厚いんですよね。これ、やりきれるのかなという感じはちょっと。
【教育長】　　２８０ページですね。これはなかなか。
【塚田委員】　　ちょっとボリュームが。
【教育長】　　ボリュームがありますね。
【塚田委員】　　ただ、内容的には、数学へのジャンプという点で魅力的ではあるんですけど、ちょっと厚いかなという感じが。
【教育長】　　他社でも２９０というところもありますけど。その辺は、何か事務局ありますか。
【塚田委員】　　それで、５年生は上下に分かれているんだけど、６年生は１冊になっているんだよね。
【教育長】　　先ほど分冊の話はありましたけれども。
教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　まず、どの社も、品川区立学校教育要領、国の学習指導要領に準じておりますので、その時数でできるという前提はございます。
　あわせて、Ｄ社、おっしゃるとおりページ数はあるのですが、特徴でも述べさせていただいたとおり、巻末に資料というような形で載っているものがあります。６年生であれば２２８ページからです。ですので、そうした資料としてページが加味されているというようなことで、特徴として出させていただいているところでございます。
　ですので、ここまで全部といったときにはなかなか子供の実態等あるのかなというところでございます。
　以上でございます。
【塚田委員】　　はい、わかりました。
【教育長】　　巻末に、こういう形で資料的なものを掲げているという６年生の構造というのは、ほかのＤ社以外もそうですか。
【菅谷教育長職務代理者】　　Ｅもそうですね。
【教育長】　　呼び方は違うけれども、大体そんな感じでしょうか。
【指導主事】　　教育長、指導主事。

【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　特にＤ社のほうが、そういった資料のほうは充実しているというような調査の内容でした。
【教育長】　　どこから資料で見るかというところかもしれませんけれども。どうぞ着席してください。結構それぞれまとめのページはたっぷり使って、中学へのいざないをしているという感じではありますね。
　さて、大分協議のほうに熱が入ってきております。まだこれだけは聞いておきたいというようなことがございましたら、いかがでしょうか。もうよろしいですか。
　地域性のところで、Ａ社のところに、杉並区と品川区の人口密度を求める問題があるんですが、残念なことに、ちょっとデータが古くて、つい先日、４０万人突破の……。
【塚田委員】　　突破しましたか。
【教育長】　　はい、記念イベントをやったばかりなので、こちらのほうが３８万何がしというようなことで、統計とった年度が古いので、そういうふうに書かれてはちゃんといるんですけれども、ぜひこれも新しいデータになっているといいななんていうふうに思います。
　委員の皆さん、よろしいですか。いいですか。
　じゃ、私がもう１つだけ、算数、理科においてはプログラミングを今度どう扱っていくかというのが重要になってくるんじゃないかなと。うちの場合、市民科でやっているケースもあるんですけど､プログラミングの取り組みに若干差異が出ているようです｡この辺、研究会、調査委員会の中では何か意見がありましたか。扱っているということでは、どの社も扱っているんですけど。特にないですか。
教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　こちら、１の（４）のところにプログラミングについては掲載させていただいております。やはり算数と理科につきましては、各社ともプログラミング教育で扱っておりますので、どの社におかれましてもプログラミング教育は扱われております。
　特別というような形ではないんですけれども、Ｂ社につきましては、全学年巻末近くにプログラミングに挑戦といったようなページはございました。
　以上でございます。
【教育長】　　Ｆのほうも各学年にあるということでよろしいですよね。
教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　おっしゃるとおりでございます。全学年においてプログラミング的思考というような形で取り扱われております。
【教育長】　　新たな内容にかかわるということで、これもそれぞれの、特定の学年でというよりは、いろいろな学年で扱っていただいたほうがいいのかなという感じがいたします。
　それでは、ご意見、ご質問が出終わったようでございますので、６社あるので多いですが、最終的にどの教科書を押すかのご発言をこれからいただきたいなというように思います。その際に、どうぞ理由等も述べていただいて結構であります。毎回申し上げておりますけれども、単純に多数決というわけではなくて、もし１社に決められなければ２社とい

うことでご推挙いただいて、もしばらつくようであればもう１回絞り込んで再度意見を出していただくということも考えていきたいと思います。全会一致で１社に決まれば、それに越したことはございませんが、そんな形で態度表明をしていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、職務代理から順番にお願いいたします。

【菅谷教育長職務代理者】　はい。いっぱいあるものですから、自分なりの観点の中で、この６社ですか、調べてみました。まず、私の調べた中で、子供の扱う面積のところの教え方がどうなっているんですか。１つ気になりました。ご存じだと思いますが、いわゆる平方センチから始まって平方キロメートルまで、その間にアールとヘクタールと、それもありますよね。小学校段階の面積の中の表記の仕方、非常に子供にとって逆の計算をしていくのは難しいんですよね。いわゆるセンチとメートルとキロと、この３つある中で、面積になると、これは４つになりますよね。その辺のところがどうなっているかということで、すっきりとわかりやすく説明している、これが１つ。

それからもう１つ、前に小中一貫教育の一番最初のときに、数学と算数のつながり、一番気になったのは、マイナスとか未知数、その辺の扱い方をどういうふうにしていくかというのが大きな論議になったと思うんです。だから、文字であらわすというところが必ず単元に入ってくるんです。そこの書き方、それはどうかなと思って見ました。例えば、ＸとかＹとか。ＸとＹという形で置きかえていくものと、Ａ、Ｂ、またはＡＢＣと、ＸＹとＡＢＣ、全部あると５つの要素があるんですけど、それを全部載せている会社も多いし、ＸＹで終わっているところもある。いろんなところで、文字の使い方というのは、先ほど塚田委員がおっしゃったように、小学校の算数と中学の数学をつなぎ合わせると、結構これ、意識的にやっていかないと難しいんですね。

そんなことで見てみて、私は、結論としてはＥの教科書で、Ｅのがいいという言い方はおかしいんですけど、ということになりました。こうやって並べてみますと、私の考えが出てくると思うんですけど、判の大きさを考えていくと、Ｆ社が、大きさが大きいので高さがあんまり高くない。これは普通でしょうね。こうやってＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ並べていくと、Ｂが少ないんです。これは分冊じゃないから表紙の分がないんですよ。だから、ページと数と、資料の中身を考えていくと、ちょうどいいのは、このＥ社だなという感じがしました。

それから、書いてあることのわかりやすさというのはあるかなというふうに感じました。

ただ、内容的に、だんだん難しくなるんですよ。これはＥ社の特徴なんですね。最初はやさしいんですけど、だんだん難しくなる。これは、Ｅの考え方だなと。

それから、先ほど出てきたけれども、私は分数が先で小数だという発想で考えたときに、２社しかないんです。そんな中にこの１社が入っているということで、私の考え方と近いかなという感じがしました。

それからもう１つ、理由としては、自分でやるということがほんとうの学習なんじゃないかなと思うんです。そこに最後持っていっているのが、このＥ社が一番意識が強いなと、そんな感じがしました。

以上です。

【教育長】　それでは、冨尾委員、いかがでしょうか。

【冨尾委員】　　私は、Ｄ社がいいと思いました。先ほども分数のことで申し上げたんですけれども、どれも実はあんまり差がないなといったらいけないんですけれども、どれもちゃんとした教科書だなというか、それは当たり前なんですけれども、そうだとは思ったんですけど、その中で、私は、分数のことが気になったので特に見たんですけれども、特に４分の１とか８分の１とか､何等分の１という単位分数がわかりやすく表記されていて、何分の３となったときにも、単位分数のところだけは斜線が入っていたりとか、算数って数という共通言語を知るという意味では、数字が持つ意味とか示しているものがイメージできるかどうかというような、ちょっと概念みたいなことも入ってくるものがあるのかなと思うので、そこがわかりやすかったので、Ｄ社がいいと思いました。

【教育長】　　職務代理はＥ社、冨尾委員はＤ社。

それでは、海沼委員、どうぞ。

【海沼委員】　　はい。私は、各学年１冊であることと、それから見やすいなと思ったことと、あとは単元もいいのかなと思ってＢ社がいいかなと思ったんですけど。

【教育長】　　Ｂでございますね。

【海沼委員】　　菅谷先生のおっしゃっていた分数のお話を伺うと、やっぱりＥ社もいいかなと思っていたんですけれども。

【教育長】　　ＢかＥだけれども、Ｂを推したいと。

【海沼委員】　　Ｂもいいな、Ｅもいいなと思っていたところです。

【教育長】　　ありがとうございます。これは三者三様になってまいりました。塚田委員、お願いします。

【塚田委員】　　私はＤ社です。さっきも言いましたように、中学への数学への関連性を見ているというところが大事なのかなと。難しいですけど、ＸＹを使って二次方程式。私、小学校の息子を教えるときに、最初に方程式で解いちゃうんですね。それから説明する。それからの説明が難しい。

そういう中学の数学への観点が入っているという点では、ちょっと６年生が厚いですけど、これがよろしいかなと。執筆陣をまた見ますと、御殿場小学校の先生と、御殿場小学校の校長先生が、品川としてはやっぱりこういうのを使ったほうがいいんじゃないかと思った次第です。

【教育長】　　Ｄということですね。

最後、私ですが、私はＥがいいのではないかなと思います。その理由は、先ほどの分数、小数の順というのも１つはあるんですけど､もう１つは､低学年の２年生あたりの足し算、引き算などの筆算が出てきた後の問題の提示の仕方、筆算の形でさまざまな問題を提示していて、習ったばかりの子供たちにはわかりやすいところがあるのかなと。普通に横書きで８６足す２３とか、そういうような問題提示もあるんですけれども、Ｅ社のほうは、その辺を筆算形式で出しているというあたりは丁寧なつくりになっているのかなという感じがいたします。

これまでも、私、何回かＥ社の教科書は見てきているんですけれども、ちょっと難しい感があったんですけれども、多少、こういったところで、よりわかりやすさをという感じで工夫をされているのかなというふうなところを感じましたので、Ｅがいいかなという感じです。このＤというのも非常に捨てがたいなという思いもありながら。

一応、いただいたご意見をまとめますと、Ｂというお声もありましたが、ＥとＤというお声が多いような状況があるので、ＥとＤの中でもう１度決めていければと思いますが、よろしいでしょうか。海沼委員、よろしいですか。

【海沼委員】　　はい。

【教育長】　　幾つかご意見が出てきておりますが、Ｅ社、Ｄ社、それぞれのよさというのを推す委員の方々が多いのかなという感じがいたします。先ほど塚田委員のお話があった６年のまとめのところ、６年から、こっちでいうと７年へのつながりなども意識してつくっていただいているのかなという感じもしますので、そこは推せるところかなと思います。また職務代理がおっしゃられたような順序性、分数から小数へという自然科学的な理解を進めていけるんじゃないかというところも、やはり重要な視点かなと思います。なかなか甲乙つけがたいかなと思いますが、これまでの協議を踏まえた形で、ＤかＥかで、どちらかの態度表明をしていただければなというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、毎回で申しわけないんですが、職務代理。

【菅谷教育長職務代理者】　　Ｅを推したものですから、６年生のところで比較しますと、資料のページの扱い方をどういうふうにするかという、全然違うんですね。このＤ社のほう、資料ページが２８０とあります。いろんなのがデータに載っていて、資料としてすごく価値があるんですけど、意外に切れ目がよくわからない。２２８でいくと、本文がすごく多いなという感じもするんですね。ただ、Ｄのところを見ていると、和算が入っていて、非常に魅力的です、私から言わせると。ただ、使うことがすごく難しいなと。このＥ社を、資料のページというのを色分けしているので、実際的には、問題も入っているので、そんなに多くないなと思います。

どちらがいいんじゃなくて、決めなきゃいけないとなったときに、最初の算数のところ、これが僕にとっては決め手になりました。これ、書かせるわけですね。ノートなのかな、ノートじゃないのかなと。それから、多分にすごく難しいんですけど、言葉の使い方が１年生ってすごくわからないんじゃないかなと思うんです。例えば、仲間の数を数えなさいという紙ですよね。数を数えてやりますよね。どこでもいいんですけど、この４ページ見てください。熊さんみたいなのが載っていますよね。この数を数えろという話になると思うんですよ。僕は、いろんな子供がいていいと思うんですけど、私から見ると、この熊さんが１、２、３、４、５、６、７というふうに数えない子供もいるんじゃないかなと。後でお答えしますけど。

それから、これもそうですよね。これもそうなんですね。着ている洋服が違うんですよね。着ている洋服が同じだと見る子供と、そうじゃないという子供もいて、分類の考え方の中には、基本、あるんじゃないかなと思うんです。その辺が、ちょっとキャラクターの熊が熊とかなんかという意味では、ものの見方というのが欠けているんじゃないかなと思うんです。色まで見て考える子が出てくるんじゃないかなと。それこそ、だめというような言い方って、僕はちょっと違うかなと思います。これは大きな、いっぱいありますよね。１つずつ見ていくと、違ったものばっかりです。

【教育長】　　顔で判断すれば、種類は共通なんだけれども。

【菅谷教育長職務代理者】　　だから、使い方はいろいろあるんだけど、１つのパターンに持っていっちゃうというのは、僕は考え方の中で何かおかしいなと。基本を教えなきゃ

いけないとすれば、果たしてノートとこれでいいのかなという論議をもっとしなきゃいけないと思うんです。
【教育長】　　Ｅ社のほうは、全部同じもので数えていくということ。
【菅谷教育長職務代理者】　　そういうことで見ていくと、新しいことはいいことだと思うし、色の工夫をなさるのもすごくいいんだけど、ちょっと生きていないなという考え方で、僕はＥのほうを、変わりません。
【教育長】　　はい、Ｅということですね。
　冨尾委員はいかがでしょう。
【冨尾委員】　　菅谷先生がおっしゃるように、これは混乱してしまうかなというふうには思います。特に子供たちが間違い探しみたいなことをしていて、これを見せられたときに、洋服が違うとかってなったら、なれ親しんだミッケとか、そういうような間違い探し的な要素からすると混乱してしまうかなとは思います。
【教育長】　　最終的には。
【冨尾委員】　　最終的には、でも、Ｄ社の分数はほんとうに感動したので、Ｄ社がいいなとは思いますが、単元としてはそこだけではないので、ちょっと混乱をしてしまってもいけないのかなと思いつつ、菅谷先生に同調して、Ｄと、Ｅ社もいいと思います。
【教育長】　　ＤかＥということですね。
　海沼委員、先ほどＢかＥというお話でしたけれども、いかがでしょうか。
【海沼委員】　　今度は、Ｅ社ということで、最後に、自分の力でということで、自分で自主的にできるような単元があるので、やっぱりＥ社のほうがいいかなと思います。
【教育長】　　塚田委員はいかがですか。
【塚田委員】　　現場で先生をやられていた菅谷先生の意見はもっともだと思いますので、Ｅということで。
【教育長】　　Ｅでよろしいですか。
　私も、今改めてこちらのＤ社の分冊、最初の２単元だけはタイルを使う場面も多いのでこちらをやるというのもなかなかいい流れだし、７年へのいざないも非常に研究されているなとは思いながらも、もうちょっと、先ほどのこういったところの完成度も欲しいなというような課題も残りますので、最初の表明のとおり、私もＥ社がいいのではないかなと思います。
　それでは、Ｅ社を推す意見が多いので、算数はＥ社に仮決定することといたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。
（「異議なし」の声あり）
【教育長】　　それでは、算数はＥ社に仮決定することといたします。
　続いて、理科について説明をお願いしたいと思いますが、準備をしますので、しばらくお待ちください。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　それでは、理科の教科書について説明いたします。
　理科は、３年生以上で学習いたします。授業時数は、品川区立学校教育要領において３年生が９０時間、４年生から６年生までが１５０時間と示されており、週当たりおおむね

３時間の授業を行っております。

理科の学習においては、児童生徒が自然現象への関心を高め、問題意識を持ち、主体的、対話的な学習を通して児童生徒みずからが問題解決に向かう学習が重要となります。今回の教科書採択に当たりましても、こうした観点を重視して調査研究を行いました。

それでは、私から、理科の教科書の特徴について説明いたします。

初めに、１、内容（２）内容のわかりやすさへの配慮について、各社６年生の赤い附箋がついたページ、Ａ社１３２ページ、Ｂ社１２６ページ、Ｃ社１３２ページ、Ｄ社１０８ページ、Ｅ社１２９ページをごらんください。

土地に関する学習における流れる水の働きによってできた地層と火山の噴火の働きによってできた地層との写真について、Ａ社はページをめくると比較できますが、Ｂ社、Ｃ社、Ｄ社、Ｅ社は、見開きや同じページに並んでおり、比較しやすくなっております。

次に、１、内容（３）小学校と中学校の学習内容の接続や系統性、関連性への配慮について。各社６年生のオレンジ色の附箋がついたページ、Ａ社２１ページ、Ｂ社１５ページ、Ｃ社１６ページ、Ｄ社２１ページ、Ｅ社２１ページをごらんください。

物質の油脂をモデルであらわすことは、中学校で学習する原子、分子につながります。ここでは、物の燃え方に関する学習における粒子のモデルの表現について比較しました。Ａ社とＤ社は気体の種類を色と形で分け、Ｃ社とＥ社は色で分けています。Ｂ社は酸素のみ丸で表現しています。また、Ａ社、Ｂ社、Ｄ社、Ｅ社は、粒子のモデルをイメージで表現しているのに対し、Ｃ社はそれぞれの気体の割合まで厳密に表現しています。

次に、１、内容（４）発展的な学習内容等についての配慮について、各社６年生の青の附箋がついているページ、Ａ社２１２ページ、Ｂ社１８１ページ、Ｃ社１９２ページ、Ｄ社１５９ページ、Ｅ社１７６ページをごらんください。

電気に関する学習におけるプログラミング学習についての比較です。Ａ社、Ｂ社、Ｃ社は、紙面上でシミュレーションする学習となっており、ＱＲコードにアクセスするとプログラミングの体験ができるのに対し、Ｄ社、Ｅ社はコンピュータを用いてプログラミングをつくるという活動になっております。

次に、２、構成と分量（１）内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮について、各社５年生の赤の附箋が張ってある目次をごらんください。Ａ社、Ｂ社、Ｄ社、Ｅ社は、最初に天気及び生物の学習が配置というように、前半に生命や地球を柱とした内容となっています。これに対し、Ｃ社は振り子の学習が最初に配置されており、この時期には算数で平均の学習が行われていないことや条件整備が含まれる学習であることから、振り子の学習は学年後半が望ましいのではという調査検討委員会では意見がありました。

次に、３、表記と表現（１）表記に対する配慮について、各社３年生の赤い附箋がついているページをごらんください。重要語句を全社太字にしていますが、さらにＡ社は黄色の網かけにし、Ｄ社はアンダーラインを引いているという特徴があります。

資料を１枚おめくりください。

次に、４、学習活動（２）課題や問題を見つけ、その解決に向けた学習に対する配慮の１つ目の○をごらんください。教科書は、４年生の赤い附箋がついているページをごらんください。単元の冒頭の特徴として、Ａ社、Ｂ社、Ｅ社は、大きな写真を使用しています。Ｃ社は学習の流れや問題解決のポイント、Ｄ社は漫画などで具体的な活動を提示しており

ます。
　次に、５、造本（１）配色や文字の大きさ等、全ての子供たちが見やすい配慮ですが、全社ともユニバーサルデザインに配慮しており、大きな差異はございません。
　（２）体裁がよく堅ろうであり、安全や環境への配慮ではＡ社がＡ４判とＡＢ判の中間の大きさ、Ｄ社がＡ４判、そのほかはＡＢ判となっております。
　次に、６、地域性（１）品川区や東京都の地域に対する配慮ですが、Ｄ社、６年生の緑の附箋が張ってあるページをごらんください。物の燃え方と空気において、品川区の独自単元である空気の重さについて触れています。
　また、Ｅ社、６年生の緑の附箋が張ってあるページをごらんください。成長と水のかかわりにおいて、本区山中小学校のグリーンカーテンが紹介されています。
　最後に、７、総合所見、本教科書の長所、特色ですが、まずＡ社の６年生、ピンクの附箋が張ってあるページをごらんください。人やほかの動物の体の学習に関して、体の中の様子が実物大で用意され、自分の体に当てて臓器の位置が確認できるようになっています。
　次に、Ｂ社の６年生、ピンク色の附箋が張ってあるページをごらんください。「理科につながる算数のまど」や「ものづくりの広場」など、他教科とのつながりや発展学習に配慮しています。
　次に、Ｃ社の６年生、ピンク色の附箋の張ってあるページをごらんください。Ｃ社は、単元の初めに身につけたい資質・能力が示されており、単元末にはできるようになったことを確認するようになっています。
　次に、Ｄ社の６年生、ピンク色の附箋がついているページをごらんください。Ｄ社は、問題を見出す場面、予想を立てる場面にページ分量を割いています。
　最後に、Ｅ社の６年生、ピンク色の附箋がついているページをごらんください。Ｅ社は、単元の初めにキャラクターが理科の見方につながる着目点を助言しています。
　以上で、理科の説明を終わります。ご審議、よろしくお願いします。
【教育長】　　事務局の説明が終わりました。委員の皆様の質疑、ご意見をお願いいたします。
　職務代理者。
【菅谷教育長職務代理者】　　誰に聞いたらいいかわからないんですけど、５年生と６年生で日光に行きますよね。夏に行くところもあるし、春行くところもある。そこで、天体の学習をやっている学校は何校あるか、そこを知りたいんですけど、やっていますかねということだけでいいんですけど。およそのことで結構ですが、どうでしょうか。
【教育総合支援センター長】　　教育長、教育総合支援センター長。
【教育長】　　教育総合支援センター長。
【教育総合支援センター長】　　日光光林荘を利用している学校は、どの学校も、小学校では行きますし、また冬の日光に行く学校も何校かございます。天気のいいときには、とても星がよく見えますので、キャンプファイヤーで外に出た後、星を眺めたりとかして話題にしたりするなどの学習といいますか、結果的に普段まちなかでは見れない星を眺める機会は、どの学校も、天気さえよければあるような実態にあります。
　あえて天体学習という形の設定はしてございません。
【教育長】　　よろしいですか。全ての学校が晴れの中でできるわけではないので、星空

体験という状況でしょうか。学びとしては、区内にもプラネタリウムもありますし、またパソコンのいいソフトもありますので、そういったものも活用しながらということなんでしょう。

ほかにいかがでしょうか。冨尾委員。

【冨尾委員】　また細かくなってしまうようですけれども、内容のところで、器具の点なんですけれども、顕微鏡がそれぞれ各社出ていますけれども、双眼顕微鏡や解剖顕微鏡について、記載があったりなかったりというような差があったかなと思うんですけれども、その点についてはいかがなんでしょうか。研究班の中では、普通の顕微鏡さえ載っていれば特に問題ないですよというようなことだったのか、それとも、もうちょっと発展的に顕微鏡などが出たほうがいいんじゃないかというようなことがあったんでしょうか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　顕微鏡に関してなんですけれども、特別に発展的な顕微鏡を扱ったほうがいいという話は出ておりませんでした。器具のことに関して言いますと、今、実験の中では使っていないガスバーナーとかアルコールランプといったものについて、巻末や、それ以外のところで参考に載っているところ、器具に関しては多少会社によっても差はございました。

以上です。

【教育長】　よろしいですか。

【冨尾委員】　はい。

【教育長】　それらが特に丁寧に載っているのはどこの教科書かなんていうことも研究されていましたか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　どこの会社も非常に丁寧には載っております。扱いの部分で巻末に載っているところもあれば、実験の単元のところで使い方等が紹介されている会社もありました。

以上です。

【教育長】　先ほどの算数でもあったんですけど、巻末にそういう資料がまとまっているほうが使いやすいとか、そういう話にはなりませんでしたでしょうか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　実際、単元の器具を使うところに載っているほうが見落としにくいのではという意見は出ておりました。

以上です。

【教育長】　そういったような紙面構成になっているのは、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅでいうとどれかというようなことは研究されましたか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。特に協議にならなければ、それで結構なんですが。

【指導主事】　２の（４）評価の特質に則した教材の構成と基礎・基本的事項への配慮

のところで記載はさせていただいております。特に各社とも差異はございません。
【教育長】　　文章表記を見ますと差異がありそうですけど。
教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　こちら、２の（４）にございますように、どの社も扱っております。扱っておりますが、Ｄ社、Ｅ社につきましては巻末というような形、Ａ社、Ｂ社、Ｃ社になりますと該当単元というようなところも出てきて掲載してある現状となっております。
　以上でございます。
【教育長】　　はい、わかりました。
　委員の方、ほかにいかがでしょうか。冨尾委員。
【冨尾委員】　　先ほどの菅谷先生のお話とちょっとまた重なる部分があると思うんですけど、星座の話なんですが、また内容についてで申しわけないですけど、各社それぞれ星座を扱っている分量が差があるかなというふうに思ったんですけれども、特にＡ社とＣ社が多いのかなというふうに思ったんですけれども、また一番最初の４年生で大体扱っていると思うんですが、夏の大三角とさそり座のアンタレスを使っているものや他の星を使っていたりと、それぞれ特徴があるのかなと思ったんですが、これについては何か委員会のほうでは内容や星の学習の分量について検討はされているんでしょうか。話も乗らなかったということなのかもしれないですけど。
【教育長】　　答え、大丈夫ですか、事務局。菅谷職務代理者はいかがですか、今の件につきまして。
【菅谷教育長職務代理者】　　天文学習って季節によって全然違いますでしょう。だから、１回やっていいというものではないと、僕は思うんですね。だから、見えたときに応じていっぱいおやりになって、その結果、自分で観察して、そういうものを積み上げてわかってくることも多いんじゃないかなという感じがするんですけど。
【冨尾委員】　　確かに、好きな人はすごく好きだしということも。
【菅谷教育長職務代理者】　　教科書にあるだけで済ませようという発想が、理科ではちょっとないのかなと思うんです。これはあくまでも１つのパターンですよね。その先生にもよると思うんですけど、見えるところに行ったらちゃんとやってほしいなと思うんですね。
　教科書によっては、２回、夏と冬が多いんですよ。秋とか春とか、そこに注目させている教科書もありました。
【冨尾委員】　　そうですね。
【菅谷教育長職務代理者】　　答えになっているかな。
【冨尾委員】　　はい、わかりました。Ｃ社が、たしか、春夏秋冬出ているんですよね。
【教育長】　　なかなか星を中心にした勉強では、春と秋というのは手がかりになる星座が見つけにくいというところがあるのかもしれませんけれども。東京のように、夜空がクリアに見えない地域に住んでいる品川区の子供たちにとっては、こういった教科書での動機づけですとか、先ほど申し上げた区内のプラネタリウムですとか、コンピュータを使った学びとか、そういったようなものを複合的に、品川光林荘での体験ですとか、トータルで考えていくというのが重要になってくるというようなところになるんでしょうか。早見

盤をつけている教科書もございますけれども、なかなか早見盤というのは、子供の理解の中では難しいかなという感じがいたしますけれども。

Ｃ社の８２、８３ページあたりには、見事な星座が全部出ており、それぞれ特色という形でありますけれども、なかなか、どういうイメージを４年生の子供たちがもつのか、難しいところかもしれませんね。

星座について、まだご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。事務局はどうですか。星座については何かありますか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　先ほどお話に出ました早見番の付録等の話なんですけれども、Ａ社は星座早見盤、付録あり、Ｂ社は付録なし、Ｃ社もなし、Ｄ社は星座カードといったものがついております。そして、Ｅ社は手づくり星座シート、こちらが付録でついております。

以上です。

【教育長】　Ｄ社ですか、星座カードに星の名前が入っていないのは、学習した子供たちに記入させるというような行為と考えればいいんでしょうか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　特に使い方に関しましては話は出ておりませんでした。

以上です。

【教育長】　出ていなかったですか、なるほど。

かなり理科の内容的な話になってまいりましたが、ほかの内容でも構いません。塚田委員、どうぞ。

【塚田委員】　理科というよりは実験なんですけど、実験の例を挙げているのが、この本は多いね、少ないねとか、そういう話は出ましたか。

【教育長】　どこかにデータが載っていましたっけ。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　実験の数というところですが、特に委員会のほうでは、そちらの話題は上がりませんでした。

【塚田委員】　大丈夫です。

【教育長】　実験、観察というのは理科の思考を深めていくためには非常に大きな手がかりになるということは、もう委員の皆さんもよくわかっていただいているので出てきた質問かなというふうに思いますけれども。

【塚田委員】　菅谷先生、大体この実験をやるというのは決まっているんですか。

【菅谷教育長職務代理者】　基本的には決まっていますよね。ただ、その先生がやりやすいのが一番ですね。やりやすいと思ったものをやる。

小学校と違って、中学の場合はどうしても５０分の授業の中で相当高度にやらなきゃいけないんですね。だから、年中できない。小学校の実験って、短い時間で観察できるのが多いんです。だから、見てみると、数的にはものすごくいっぱいです。どこをどういうふうにやるか、やったことにして、教科書を見て、これが答えだねというのも１つあるでし

ょうね。
【塚田委員】　　全部が全部できない。
【菅谷教育長職務代理者】　　全部が全部できないと思います。
【教育長】　　小学校の場合には、特に理科の専科の先生が教えるわけではないので、体育もそうなんですけれども、担任の先生が理科を教えているというケースが多く、本区の場合には、５、６年生はなるべく専門の人間が教えられるような体制は組んでいるんですが、そういった意味では、なかなか実験の準備をしたり正確なデータを出したりというのは難しい状況があるのかもしれません。生活科の発展ではないんですけれども、やはり取り組んでみることが重要で、教科書と同じようなデータが出てくれば、ああ、よかったねという話になりますし、逆にそういうデータが出ないときには、じゃ、どうして違ってきたんだろうという、そこがまた課題意識の発生になるというあたり、こういった学びができるような実験観察のステップになっているということは、大事だと思います。まあ、どの会社でもそういったことに留意してつくられているんじゃないかなとは思うんですけれども。
　ほかにはいかがですか。冨尾委員、どうぞ。
【冨尾委員】　　キャラクターのことなんですけれども、Ａ社は特徴的なキャラクターが使ってあるかなと思ったのと、Ｄ社は、黒いクマさんが出ていて、そのほかの人間のキャラクターも太い字で書いてあったりするような、ちょっとインパクトのあるキャラクターを使っているかなと思ったんですけど、そういった教科書の中に出てきたキャラクターについてのお話は何か出ましたか。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　それぞれの会社によってキャラクター、名字と名前までしっかり入っているキャラクターが設定されていたりですとか、あとアニメのキャラクターが使われているといったものについて話は上がりました。
　どの教科書を見ても、そういった形で対話形式になって学習のガイドになるといったところで話題が出ました。
　以上です。
【教育長】　　人気のキャラクターが出てきたりフクロウが出てきたり、いろいろな状況があるようですが、大体同じような感じでしょうか。
【塚田委員】　　今の子、鉄腕アトム知っているかしら。
【教育長】　　ああ。
【冨尾委員】　　知っているんじゃないですか。
【教育長】　　お茶の水博士はわからない……、アトムはわかるんですかね。
【冨尾委員】　　理科だからね。
【教育長】　　ほかにはいかがでしょうか。特になければ、先ほどと同じように、どの教科書を推すかのご発言をいただくようにしていきたいと思いますが、よろしいですか。
　それでは、職務代理者のほうからまたお願いいたします。
【菅谷教育長職務代理者】　　一応、理科を教えてきたものですから、実験観察をどういうふうにやっていくか、そのことを含めて、それから今の子供の中で、多分、理解のしに

くいもの、そういうものをピックアップしながら調べてみました。

やっぱり３年生の最初の授業というのは、理科は初めてなんですよね。そういうところは重視しなきゃいけない。植物の観察からドンドン全部上がっていくんです。ここで、疑問と、どうやったらその疑問を解決するかという、いわゆる探求の学習という形をきちんと形づくっていかないと、それから先へ行かないんじゃないかなというふうに思うのね。

それからもう１つ、そろえられたもので一生懸命実験をやればいいわけであって、先生が、全部そろっているからやれという実験は一番つまらないですね。例えば振り子の実験、出ていますね。先ほど話の中で、その学年の最初じゃなくて後のほうがいいといういろんな言い方がありましたが、それはそうなんですけど、あの実験、教科書にあるものだけでやるということ自体、私はすごくおかしいなと思っています。小学校の段階だから、長さとか振れ幅とか重さになるんですけど、もう１つ、引っ張っているひもですね。それから支点の問題とか、いろいろ出てくると思うんです。その出てきたものを全部じゃなくてやろうとするので、子供の工夫が意外に少ない。もっと子供たちが工夫を持ってやったほうがいいんじゃないかなと。極端なことを言うと、ビルの、校舎の高いところでやったときと地下室でやったときの違いはどうなんだろう、これが出たらすばらしいですね。結果なんか出るわけないんですよ。出るわけないんだけど、発想がすごくいい。だから、発想がどれだけ引き出すかというのは、僕は理科の教科書の一番いいところ、また理科の授業で絶対やらなきゃいけないところだと思うんです。

そういう観点で見ていくと、結果的には、いい、悪いいっぱいありますよ。全てのことが、この教科書で全部いこうという発想はないですね。これがよくてこっちはだめ、それの繰り返しばかりなんです。だけど、今の子供たちが一番やらなきゃいけないのは、答えだけを出しちゃう、結果だけわかったら、それで自分はわかった気になる、そういう教科書はやっぱりまずいですよね。疑問を残しながら、次に、中学に行けばもっと内容が濃くなりますし、いろんなことをやらなきゃいけないから、やりたい、きちんとするものを教えていかなきゃいけない。そう考えていくと、私はＥの会社になります。いろんなものを全部調べてきたんですけど、やっぱりＥが一番いいのかな。Ｅがいいって変な言い方になりますけど、そういう意味ではなくて、この並び方がはっきりわかりました。

【塚田委員】　　さっきもＥだったんですね。

【冨尾委員】　　確かにね。

【菅谷教育長職務代理者】　　それから、６年生のところ、さっきちょっとご説明あったんですけど、粒子で水を考えるときに、点々の数で数える、あれはわかりやすいからとは書いてあるけど、あれは非常にインチキ、ひどいなと思って。あの粒の大きさ、あれは何の意味があるのかって、わかりませんでしょう。非常にあそこに問題があるんですよ。あれで覚えちゃうと、違うんですよ。ましてアボガドロ数という、あの変な数字、絶対出てきますよね。あれを表現できないんですよ。そこはちょっとおかしいなと思った。

それから、最後の水溶液のところを調べていただくとわかるんですが、意外に小学生ってわかりにくいですね。中学になればそれはわかるんですけど、アンモニアのほうの使い方が、重曹があって、アンモニア水があってというところだと、何を使うかというと、数多く身の回りにあるものを並べていって、子供たちは、それの酸アルカリを調べたいというほうがいいと思うんですが、狭くしてしまって、４つしかないというのはおかしいと思

います。ですから、ここのところが大事というのは。
　それから、小学校の典型的な石灰水がない会社が２つあったんです。ほかで使っているのに、なぜそこで使わないのかという疑問を感じました。
　そんなわけで、探究的な学習が一番しやすい教科書で、私はＥというふうに思いました。
【教育長】　　ありがとうございます。
　次の方、なかなか言いにくいとは思いますが、冨尾委員、どうぞ。
【冨尾委員】　　私もＥがいいと思います。ＵＤフォントだったりとか、サイズの問題ですとか、キャラクターの問題もありますけれども、どれも私はそんなに差がないというか、どれもいいかなというふうに思ったんですけれども、菅谷先生のいろいろご説明を聞いて、私は実はアトムがいいかなとか、Ｄの黒い熊さんもいいかなとか思ったんですけれども、菅谷先生の説明を聞いて、実際に教えていらした先生ですし、先につながるというようなことを考えますと、Ｅがいいのかなというふうに思いました。
【教育長】　　海沼委員。
【海沼委員】　　私も、Ａかな、Ｄかな、Ｅかなと思っていたんです。いろいろ見まして、単元の初めにキャラクターが、理科の見方につながる着目点を助言しておりますよね。そこがすごいいかなと思って、Ｅがいいかなと思っていたんです。
　Ｄも、ホウセンカの実験なんかも出ていたので、懐かしいなと思いながら、ああ、こういうことも今でもやるのかなと思って見ていたところなんですけど。
　Ａは、すごい見やすいかなと思って見ていたんですけれども、特に人体のところで、これはいいなと思ったんですけれども。
　最終的にはＥということになりました。
【教育長】　　塚田委員。
【塚田委員】　　私も、理科の教員を長くされていた菅谷先生の意見を尊重して、Ｅにしたいと思います。それに、山中小学校の緑のカーテンも出ているし、執筆陣に八潮学園の校長先生がいるということで、品川はこういう教科書を使ったほうがいいというふうに思いました。
【教育長】　　一色になってきたような感じです。私は、ＤかＥがいいかなという感じがしました。それぞれよさがあって、Ａは、先ほど海沼委員が言われたように、体の大きさと同じ折り込みの人体図なども工夫されているところ、スクラッチは話題に出ませんでしたが、プログラミングで、本区でもかかわっている学校が多くあり、こういったところも魅力かなと思うんですが、気象関係のデータが関西方面が中心というあたりは、ちょっととっつきにくいのかもしれないかなと思ったりもしました。
　そんなふうにそれぞれ一長一短がある中で、トータル的にバランスがとれているのがＤかＥかなという感じがします。Ｄ社は、特に品川区の独自単元の空気の重さについて６年でかかわっているところが魅力かなという感じがしました。
　ただ、全体的にＥ社を推す意見が多いので、Ｅ社に仮決定することといたしたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
【教育長】　　それでは、理科はＥ社に仮決定することといたします。
　次は、生活科です。事務局からの説明をお願いいたします。

【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　私からは、生活科の教科書について説明させていただきます。
生活科は、具体的な活動や直接体験を通して学習することが教科の特徴ですが、ややもすると、活動や体験をすることが中心になって児童に考えさせたり知識、技能を身につけさせたりすることが弱くなりやすいという課題も指摘されております。
生活科の授業時数は、品川区では１年生１０５時間、２年生１０５時間です。また、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める科学的な見方や考え方の基礎を養うことが重視されており、これらの観点を踏まえて調査研究を行いました。
それでは、各社の特徴について説明します。
生活科は７社ございます。資料をごらんください。教科書は各社上下巻の２冊ですが、１年生で上巻、２年生で下巻を使用することになります。
まず、１、内容面での特色についてご説明します。（１）については、各社とも低学年児童の発達段階を踏まえ、イラストや写真を多用し、キャラクターを登場させ、わかりやすく工夫しており、大きな差異は見られませんでした。
（２）は、１年生の上巻の家族の単元を例として説明いたします。各社上巻、緑の附箋をごらんください。
各社とも家族の様子の写真やイラストが使われております。子供のお手伝いの様子、いろいろな家族の形態など、それぞれ特徴があらわれています。
次に、３年生からの理科や社会との接続や関連性について分析いたしました。まず、理科との接続や関連性について説明します。２年生下巻の栽培を例として説明いたします。各社とも、栽培活動において気づいたことを書かせる観察記録が例示してあります。
Ｅ社上巻２４ページ、青の附箋をごらんください。ここでは、私の朝顔が例示されております。教員のコメントも例示されております。
Ｆ社上巻３４ページ、青色の附箋をごらんください。観察カードは、「かんさつずかん」の大きく観察の仕方を例示されております。
続いて、Ｃ社、Ｆ社、Ｇ社の赤色の附箋をごらんください。理科、社会科へつながる内容を示しています。特にＧ社では、理科や社会へのつながりを発展などで示しております。
（４）発展的な学習内容についての配慮は、巻末資料の発展課題を提示するページがあり、特に大きな差異はございません。
次に、２、構成と分量について説明いたします。２年間で９つの内容、領域を学習する学習指導要領、品川区立学校教育要領で示しておりますが、この９つの組み合わせ方として、季節の流れに沿って単元、教材を配列しております。なお、Ｅ社のみですが、大きな５つの活動ごとに探検が配置されており、各単元の中で季節の流れに沿って配列をされております。
次に、３、表記、表現についてです。各社とも差異はございません。
次に、４、学習活動（１）においては、主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮について、各社とも教科書のメーンキャラクターたちが対話的な学習活動をしている場面を例示しており、主体的な学びのヒントになっており、大きな差異はございません。
（２）において、各社ともそれぞれ単元に調べ方や活動の広げ方のヒントが記載されて

おります。
　次に、５、造本についてです。Ｅ社、Ｆ社以外は、各社ともＡＢ判であります。なお、Ａ社、Ｃ社、Ｄ社、Ｅ社、Ｆ社については、上巻オレンジ色の附箋をごらんください。ごらんいただいたように、スタートカリキュラムのページが少し短く裁断されております。
　次に、６の地域性についてです。各社とも掲載されているまちや公園の様子が品川区になじみのあるものです。また、だんご虫など、品川区で発見しやすい、土らしく、児童にとって身近な生き物も例示しております。
　特にＧ社上巻９ページ、黄色の附箋をごらんください。品川区のお友達の写真が掲載されていました。
　最後に、７の総合所見です。次のような長所、特色があります。
　Ｃ社、Ｄ社、Ｅ社、Ｆ社、Ｇ社については、保護者向けの内容がありました。また、Ｇ社については、環境問題に関して、リデュース、リユース、リサイクルまで明記されております。
　以上で、生活科の説明を終わります。ご協議よろしくお願いいたします。
【教育長】　　説明は終わりました。委員の皆様からご意見や質問があればお願いいたします。はい、職務代理者。
【菅谷教育長職務代理者】　　生活科って、学校の中じゃなくて外に出ていきますよね。地域に出ていきますよね。１年生、２年生で出ていくって限られますけど、例えば荏原地区だと大崎地区からどの辺に行くかどうか、それの調査はどうしていますか。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　身近な自然を観察する単元においては、林試の森へドングリを拾いに行くという学校がございました。
　以上です。
【教育長】　　よろしいですか。学校の周りに、そういうところがあれば、林試以外でも、季節に応じて出たり入ったりするというのが生活科のポイントになってくる部分だと思いますが、ほかにいかがでしょうか。冨尾委員。
【冨尾委員】　　保護者向けのメッセージが掲載されている教科書が幾つかあったかと思うんですけれども、実際、学習を進めるに当たって、家庭で保護者とこんなお話をしてらっしゃいねというような場面ですとか、生活科の教科書を、うちの子供だけかもしれないですけれども、毎日持って帰ってくるというイメージがなかったものですから、そういった使い方としてはとうなんでしょうか。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　生活科の教科に関しては、将来の自立に向けて支援することがございまして、保護者との連携がとても欠かせない教科だと思っております。
　以上です。
【教育長】　　教育総合支援センター統括指導主事。
【教育総合支援センター統括指導主事】　　身近なところでございますと、今のこの時期、朝顔も育てていて、それを持ち帰るというような体験だとかあるかと思います。保護者と

一緒に持ち帰ったりしながら、実際にお家で観察したりするということで連携が必要でございますので、そうした中でいうと、そうしたメッセージが載っているということは有意義なことではないかと、調査研究会でも出ていました。

以上です。

【冨尾委員】　学校の中で、夏休みに朝顔を持って帰ったから、生活科の教科書も１回見てくださいねというようなお伝えの仕方なんていうのも実際されているということですね。

【教育長】　生活科の教科書は、基本的に持ち帰りながら家と学校をつないで学ぶ性質ですか。

【教育総合支援センター長】　教育長、センター長。

【教育長】　教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】　実際、家庭で会話をしながら、今日、ここまで栽培しているものが育ったよなんていう部分は、家庭の励ましも必要ですし、日記を、週の様子で、葉がどれだけ育ったかなど、教室の外であったり廊下に１人１人の掲示で飾っている部分もありますので、なるべく持ち帰って話題は共有していただいたりなどは、各担任とも工夫をしているところでございます。

【教育長】　そういった意味では、そういうメッセージがしっかりとあったほうがわかりやすいということなんでしょうね。

市民科は、市民科の学習以外で使う場面もありますから、学校に置いて活用する。こちらの生活科は持ち帰りながら活用していくという形になるんでしょうね。

ほかにいかがでしょうか。冨尾委員。

【冨尾委員】　Ａ社なんですけれども、表面がざらっとしていて、窓があって、のぞいてみたりして、とてもおもしろい教科書だなと思うんですけれども、こういう造本のことについてとか、何かお話はありましたでしょうか。

【指導主事】　教育長、指導主事。

【教育長】　指導主事。

【指導主事】　先ほど委員さんがおっしゃったように、まだ掲載の中では、検討委員会ではそういういろんな差異はあるねというお話はしたんですが、ただ、教科書の使い方によっては、地域の特色を生かして教員が工夫をした授業をしていくところがあるので、特に形態が多少変わっても、それが大きな何か問題があるか、どれがいいか、どれが悪いかというお話にはなっておりませんでした。

以上です。

【教育長】　いいですか。

【冨尾委員】　はい。

【教育長】　私だったら、この真ん中で切り抜きたくなりますね、このページの窓のところ。そうすると、何か出てきたりして。ほかにはどうでしょうか。

職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】　多分、２年生だと思うんですが、地域に出ていって地域を調べる、その例が載っているのが教科書で。どの地域って、先ほど品川がありましたけど、どう見ても、西日本、私たちの東日本じゃなくて西日本の、例えば市役所とか看板とかが

すごく多いという教科書があったんですが、そういう地域教材をここに載せることの問題点、内容について、委員会のほうでご研究なさったとき話題に出たでしょうか。
【指導主事】　教育長、指導主事。
【教育長】　指導主事。
【指導主事】　今のまち探検のところなんですが、単元で導入でビニールハウスを使っている教科書があったので、そこはちょっとほかと差異があるかなと。また、導入のところで、いろんな商店街の写真とかがあるんですが、イラストで上からのぞき込むイラストだったりとか、そういう差異はございました。
以上です。
【教育長】　地域性がなかなか重要な要素になるという部分はございますね。そういった意味では、Ｇ社は品川区の学校まで出ている、すごいですよね、これは。
【塚田委員】　ただ、どこだかわからないですよね、この写真だと。
【教育長】　私、いろんな学校を見ておりますので、これで十分。
【塚田委員】　わかります？
【教育長】　わかってしまいますね。ほかにはいかがでしょうか。
このスタートカリキュラムの部分で、長さをあえ短くしているというのは、かなり効果的になるんでしょうか。研究会のほうでは、何かこれに対して意見が出ておりましたか。
【指導主事】　教育長、指導主事。
【教育長】　指導主事。
【指導主事】　今のご意見なんですが、やはり下が切れていましたので、教科書を見たときに、委員の先生たちは、使いやすいねというのはありました。
【教育長】　これ、何で使いやすいんだろう。
【菅谷教育長職務代理者】　ページ、めくりにくいという感じがするよね。
【教育長】　ねえ。
【塚田委員】　評価されるのか。
【教育長】　そうか。委員の皆様はどうですか。あえて短くしなくてもいいんじゃないかなという気がするんですけど、情報量が減ってしまう、もったいないかなとか。ここの段階までは１年生じゃないんだよというイメージになるんですか。１年生なんですけど。
【塚田委員】　何社かあるんですね、そういう会社が。
【教育長】　そうですね。Ａ社さん、Ａ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆと、同じ長さでやっているのはＢとＧですか。あえて短くする必要はあるのかななんて私は思うんですけど、委員の方々、いかがでしょう。全体的に同じようなイメージで写真やイラストが多くて、大きな差異というのがなかなか出にくいかなという感じはするんですが、そういった中で、委員の方々が、このところがいいんじゃないかな、こういったところはちょっとというようなのは、１つはポイントになるかなという感じがします。この後、同じように、どの社がいいかということを言っていただくときに、そういったポイントなども触れていただくといいかなというふうにも思いますし、どうしても１社に絞れないというのであれば、複数選んでいただいても構わないとは思うんですけれども。もう質問はよろしいですか。
私から最後に１つ、シールを活用しているみたいなところもあったんでしたっけ。
【指導主事】　Ｂ社の巻末にシールがございます。

【教育長】　　このシールに関しては、研究会のほうでは何か意見が出ておりましたか。
【指導主事】　　教育長、指導主事。
【教育長】　　指導主事。
【指導主事】　　シールがあるということが、それは研究会の中では認識はしているんですが、使い方によるねというふうにおっしゃっていたので、特別シールがあるからいいとか悪いとかというお話は出ていませんでした。
　以上です。
【教育長】　　ということは、あえてなくてもいいんじゃないかというところでしょうか。
　それでは、委員の皆さん、よろしいですか。
【塚田委員】　　ちょっといいですか。
【教育長】　　どうぞ、塚田委員。
【塚田委員】　　このＡの下巻の最後の目的のシートです。これは何なんですか。
【教育長】　　ページでいきますと。
【塚田委員】　　巻末に、１１３です。
【教育長】　　１１３ページ、レイヤーでなっているやつですね。
【塚田委員】　　夜は暗いねという話なんですか。
【教育長】　　これはどういうことでございますか。
【海沼委員】　　夜は働いている人がいる。
【教育長】　　その前のページの懐中電灯のところを切り取ってのぞくと、レイヤーの上からでも向こう側がよく見えるということ……。
【冨尾委員】　　下に入れるんですね。
【教育長】　　下に入れるのか。楽しそうですね。
【塚田委員】　　１１２ページにも似たような絵が書いてあるんですよね。
【教育長】　　昼間と夜とを比較するということなんですね。
【塚田委員】　　そういうことなんですか。
【教育長】　　なかなか実学体験の教科の中で、こういうシミュレーション体験というのも難しい状況なのかもしれません。いろいろ工夫はされているみたいですけど。
　どれかに絞り込みができましたでしょうか。よろしいですか。
　それでは、お伺いしてまいりたいと思います。最終的にどの教科書を推すかご発言ください。職務代理者、お願いします。
【菅谷教育長職務代理者】　　どうも悪いという意識が、生活科の場合は、教科書というのは難しいんです。これを使ってどういう授業をやるかのほうが大事だと思いますので、１つのサンプルだなと思って。あと、何のポイントを見ていくかなと思ったときに、私は、１つ、学校に初めて入った子供がこれをやりますよね。ご家庭でもそうだと思うんです。子供に必ず、親御さんは、学校どうだったって聞きますよね。学校探検って単元ありますよね、最初のほうに。そのときに、多分、子供にとって一番インパクトが強いのは先生じゃないかと思うんです。どうでしょうか、皆さん。先生は、いい先生で、あの先生、気に入ったとか、怖いとか、いろんなことを言うのが子供じゃないのかね。その学校探検の中で、どういうふうに先生を扱っているかと見たときに、結論からいうと、１つ、Ｇの先生は、ずっと同じ先生が写っています。写真で撮っています。品川の先生か世田谷かわかり

ません。だけども、にこやかな女性の先生が最初から最後までずっと出ていらっしゃる。僕は、安心感がここにあるなと思っています。ほかの社が悪いというよりは、そういういい写真というのはすごく難しいと思うんですよ。だから、イラストで書いてあります。どの先生もイラストになっちゃっていますよね。写真もありますよ。校長先生みたいな人が並んでいて、威厳がありそうな顔で座っている、そういうのはあるけど、担任の先生がずっと子供の成長とあわせていろんなところへ出てきてくれる、それも笑顔で出てきているということに、私は価値観を持ちます。

そういうふうに考えて見てもいいのかなって。１つしか決められないとすれば、子供の笑顔、それから先生の笑顔が載っているＧ社がいいなと。非常に教科書選定の中では、変な言い方していますけど、なかなか差がないというところが、私はそれで決めました。

【教育長】　　わかりました。では、冨尾委員、いかがでしょうか。

【冨尾委員】　　私もＧ社がいいと思いました。一番最初のスタートのカリキュラムの中で、Ｇ社が８ページから１３ページになりますけれども、上の段は学校のことが書いてあって、下の段のところに幼児期のイラストのことが書いてあるんです。今までこんなことができていたから、学校でもこんなことができるよねというような、ちょっと自信につながったりとか、子供たちも、こんなことができていたんだから、こんなことをやってみたいななんていうふうにスタートが切れるんじゃないかなということが思いました。

それと、保護者への話などがあったのと、品川区のお友達も載っているということで、Ｇ社がいいと思いました。

【教育長】　　なるほど、ありがとうございます。

海沼委員、どうぞ。

【海沼委員】　　私も同じで、Ｇ社がいいかなと思って今ずっと見ていたんですけれども、キャラクターもそうだし、菅谷先生がおっしゃった、先生がずっと同じというのもいいかなと思って見ていたところです。

【教育長】　　塚田委員はいかがでしょうか。

【塚田委員】　　私はＡ社。表紙がおもしろいなと。あと、電車の乗り方、ちょっと外にお出かけするときに、お子さんがいるとうるさいねというのはあるんで、多少そういう乗り方のマナーみたいなのを教えたほうがいいのかなという気がして。それと、執筆陣に延山小学校の先生がいて。

ということでＡ社ですが、私もそんなに各社大差ないと思っております。

【教育長】　　ありがとうございます。私、Ｇ社がいいですね。この最初の、先ほど先生が変わらないという話がありましたけれども、最初に出てくる子供たち、おそらく日本国籍ではない子供たちもいるのかなと思いまして、こういう取り扱いをしているのは、このＧ社だけなんですね。品川区ではこういう学校が今、非常に今増えてきている状況があって、これからもグローバル化が進んでいくだろうと思うので、そういった視点が１つはいいなというふうに思ったところです。

あとは、今までいろいろ出てきた意見とほぼ同じで、Ｇ社がいいかなというふうに思いました。

それでは、全体的にはＧ社を推す意見が多いということでＧ社に仮決定することといたしますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

【教育長】　　それでは、生活科はＧ社に仮決定いたします。

ここで１０分間の休憩を挟みたいと思います。あの時計で２０分再開でもよろしいですか。では、２０分再開ということで、暫時休憩いたします。

（　休　　憩　）

【教育長】　　それでは、再開いたします。

次に、日程第３、その他の１つ目です。品川区スポーツ推進計画の策定について、事務局からの説明をお願いいたします。

【スポーツ推進課長】　　委員長、スポーツ推進課長。

【教育長】　　スポーツ推進課長。

【スポーツ推進課長】　　改めまして、スポーツ推進課長のナカモトヤスコでございます。本日はよろしくお願いいたします。お時間をいただきましてありがとうございます。

お手元のほうに教育委員会資料４ということで資料を配らせていただいておりますが、資料に入らせていただく前に、本日教育委員会に品川区スポーツ推進計画の策定についてご報告させていただく背景についてご説明申し上げます。

国の定める法律でスポーツ基本法というものがございます。そちらの第１０条の第２項というところで、特別区を含む市町村の長について、地方スポーツ推進計画を定めるとき、変更するときは、あらかじめ教育委員会からご意見を伺うことが義務づけられているものでございます。この規定に基づきまして、まずは品川区といたしましては、今年度、来年度、２年間かけてこちらの推進計画をつくってまいるんですけれども、これから策定に取り組むというところでご報告を申し上げる次第でございます。

この後、また来年度に入りましたら、素案がまとまりました段階で、再度教育委員会にご意見を伺いにまいらせていただきたいと思っているところでございます。また、その際にはよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、資料４に沿いましてご報告申し上げます。品川区スポーツ推進計画の策定について、１、目的でございますが、子供から高齢者、障害のある方もない方も、誰もが地域でスポーツに親しめ、健康長寿や地域の活性化など、区民及び品川区に効果が期待できるスポーツ施策を体系的かつ計画的に実施するため。根拠法令としましては、先ほども申し上げました国のほうのスポーツ基本法第１０条、第２期スポーツ基本計画というものが国のほうで出ているところでございます。

３番としまして、策定時期は令和３年３月予定でございます。

４番、予算額といたしましては５８９万４，０００円、こちらはほぼ今年度の報償費と委託料等でございます。

５番の策定方法でございますが、まず、策定委員会を設けさせていただきます。１５人以内を目途といたしまして、学識経験者の方や区内のスポーツ・レクリエーション団体等の代表者の方、また公募区民２名の方、また学校関係者ということで校長先生に２名ほど参加をお願いしているところでございます。こちらは、品川区立の戸越小学校の矢田校長先生と、品川区立東海中学校長の野口校長先生ということでお名前をいただいているところでございます。品川区職員、その他区長が認めるものということで、区長が委嘱した日からスポーツ推進計画の策定が完了する日までとなります。また、その下部組織といたし

まして、庁内検討会を設けさせていただき、庁内の課長級関係部署の課長さんにお願いをして実際策定委員会に出す前のいろいろな議論をさせていただきたいと思っているところでございます。

６としまして、策定スケジュール案でございますが、今年度につきましては、主に区民アンケート調査等をやってまいります。課題の整理等をさせていただき、来年度につきまして骨子、素案等を作成し、パブリックコメントを実施し、策定してまいるというところでございます。

私のほうからのご報告は以上でございます。

【教育長】　説明が終わりました。それでは、質疑があればお願いいたします。

【塚田委員】　よろしいですか。

【教育長】　塚田委員。

【塚田委員】　これから策定するんですが、イメージとして、どんなものができてくるんですか。

【スポーツ推進課長】　委員長、スポーツ推進課長。

【教育長】　スポーツ推進課長。

【スポーツ推進課長】　スポーツと申しますと、少し前の考え方ですと、健康のためにとか、そういう競技スポーツのためにという部分が大きかったんですが、国のほうが、やはりオリンピックを招致できたという影響もあるんですけれども、まちづくり、スポーツを通した地域のコミュニティづくりであるとか、健康長寿、保険医療費を抑えるためになるべく長く健康で生きていきましょうというようなものが大体それを占めていまして、それに向かって、区としてどのような施策を展開していくのかというのを、具体的には方針等、また今やっている施策もたくさんございますので、それを体系的に整理してお示しをするというものになってございます。そういうものでございます。

【塚田委員】　わかりました。

【教育長】　ほかにいかがですか。

【海沼委員】　じゃ、１つ。どういうスポーツ、スポーツだけじゃなくて、いろいろなゲーム的なものも入るのかなと、今、イメージ的に思ってはいたんですけど、どういうものが入るのかと。

【スポーツ推進課長】　委員長、スポーツ推進課長。

【教育長】　スポーツ推進課長。

【スポーツ推進課長】　今、ニュースポーツというものが、結構地域スポーツクラブで取り組んでおりまして、どなたでも参加しやすいようにということで、少しルールを簡単にしたものとか、道具が扱いやすくなったものとか、そういうものもニュースポーツというものを取り入れて、障害のある方であるとか高齢になって体がうまく動かなくなっても一緒に楽しめるようなものということでいろいろやっています。ゲーム的なものでよくあるのは、ターゲットが、番号が９枚紙があって、そこに何か物を投げてあけていくとかいうものとかも、ターゲティング的な競技、それもサッカーで蹴ってやったりもできますし、物を投げてもできるし……。

【塚田委員】　テレビでやっているやつだよね。

【スポーツ推進課長】　テレビでやっている、ごらんになっている。そういうものも、

地域のスポーツクラブで、イベント的にですけど、やらせていただいたり、あと障害者の方も入ってくると、フライングディスクとかボッチャですね、フライングディスクというのはフリスビーみたいな、丸い円盤のものを投げてまとに当てるとか。

あと、いますごく人気があるのがグラウンドゴルフですね。ゴルフを簡単にしたような、ホールに落とすのではなくて目標のものを立てて、そこにゴルフみたいな形で、グラウンドゴルフのものを、道具でそこに向かってボールを入れるとか、それは今すごく盛んになっていますね。

あと、簡単なものですと、ウォーキングも含めてということになってまいります。

国のほうでは、スポーツ実施率を考えるときに、散歩とか、そういう暮らしの中で簡単に取り組める運動も含めてということで考えているところでございます。

以上でございます。

【海沼委員】　ありがとうございます。

【教育長】　今、まちなかにスポーツジムも非常に多くなっていますよね。ちょっとスペースがあると、こんなところにスポーツジムができているという感じで、国民の意識は随分高まってきているのかなと思いますが、ほかにはどうでしょうか。冨尾委員。

【冨尾委員】　施設をつくったりとかいうのではなくて、そういうイベントですとか、こういう取り組みをみんなでしましょうみたいな啓発といいますか、そういうようなことをされるということなんでしょうか。

【スポーツ推進課長】　スポーツ推進課長。

【教育長】　スポーツ推進課長。

【スポーツ推進課長】　これ、一応、実は、先には、できたらそういう施設も考えていきたいというところも入れる想定ではございます。ただ、まだなかなか場所の問題、課題はございますが、なかなか区内で、都心ですので、今、学校さんの地域開放とかですごく活用させていただいている状況があるんですけれども、それ以外にも、少し総合体育館と戸越体育館というものもございますけれども、将来的には、どこかもう少し、区の皆さんが行きやすいところに拠点となるものをつくっていきたいなみたいな思いも、そういう将来の目標みたいなものも入れられたらいいなという、所管としては思いはございます。

【教育長】　品川アリーナ２０２０ね、すばらしい施設ができるといいですよね。

ほかにいかがでしょうか。

私から１つ。この区民アンケート調査なんですけれども、対象としては、どういうターゲットになるんでしょうか。

【スポーツ推進課長】　スポーツ推進課長。

【教育長】　スポーツ推進課長。

【スポーツ推進課長】　アンケート調査、区民のほうに向かいましては、世論調査と同じような枠組みで、地域ごとにミニ品川区みたいな形で各地域ごとにバランスよく、年代も人口構成に沿った形で比例して３，０００本の郵送でのアンケートをお願いいたします。

それとは別に、実は学校さんにもアンケートのご協力をお願いしたいと思っているところでございます。そちらは、５年生で５００人、８年生で５００人ぐらいのものを、今後、先生方とご相談しながら、どういう形でできるかというところもございますので、これからお知恵をかりてやらせていただきたいと思っているところでございます。

【教育長】　　人口比に合わせてということですけれども、学齢期の子供たちに関しては学校をベースとしてとっていくということですね。わかりました。

そのほかはよろしいですか。

それでは、品川区スポーツ推進計画の策定につきましてはよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【教育長】　　では、本件は了承いたします。

【スポーツ推進課長】　　ありがとうございます。

【教育長】　　次に、日程第３、その他の２、令和元年８月、９月の予定についての説明をお願いいたします。

【庶務課長】　　教育長、庶務課長。

【教育長】　　庶務課長。

【庶務課長】　　それでは、資料５のほうをごらんいただきたいんですけど、今日は席上で差しかえということで席上配付させていただいております。

まず、８月の行事予定ですけれども、８月は１回、８月２０日、臨時会ということで予定をしてございます。一応、教科書採択が順調に今月中に終われば６日はなしでいきたいというふうに思っております。

それから、９月に入りまして、３日、そして１０日ということで、議会等との日程調整上、第１と第２火曜日を予定させていただいております。また、３日は学校訪問ということで、１時に、後地小学校、小山小学校に、それぞれ記載の委員様は訪問していただきたいと。教育委員会自体は３時に始めたいと思います。１０日は２時開会ということで開催したいと思います。よろしくお願いいたします。

【教育長】　　説明が終わりました。皆様、予定大丈夫でしょうか。

後地は、今、工事中ですけど、プレハブでということになりますか。庶務課長。

【庶務課長】　　そうです。今、校舎建築中ですので、そこも見ていただきながら仮設の校舎で子供たちがどういう生活をしているかというところを見ていただければと思います。

【塚田委員】　　場所は大きく変わらないですよね。

【庶務課長】　　場所は、後地小学校の校庭のところに仮設が建っております。

【教育長】　　じゃ、９月は続けてという形になりますか。

では、令和元年８月、９月の予定につきましてはよろしいですか。

では、本件も了承いたします。

その他、ございますか。

【庶務課長】　　特にございません。

【教育長】　　それでは、先ほど決定しましたとおり、これから非公開の会議に移りたいと思いますので、傍聴の方はご退出願います。

―― 了 ――